

Gustave Flaubert, *L'Education sentimentale* (1869)



『ボヴァリー夫人』(Mme Bovary, 1857)

エンマはパリの地図を買いもとめた。そして指先で図面の上をたどりながら、町中を歩きまわった。町角のひとつひとつで、通りの線と線のあいだで、家をあらわす白い四角形の前で立ちどまりながら、彼女は大通りをのぼっていった。しまいには眼が疲れて瞼を閉じた。すると、暗闇のなかに、風にゆらめくガス燈の炎や、劇場正面の柱列の前で騒々しい音をあげて降ろされる馬車の踏段が、見えてくるのだった。

『ボヴァリー夫人』(Mme Bovary, 1857)

彼女は「花壇」という女性新聞や、「サロンの精」を予約購読した。芝居の初演や、競馬や、夜会の記事はひとつも飛ばさずにむさぼり読み、女性歌手の初舞台だとか商店の店開きなどに興味をもった。新しい流行や、上手な仕立て屋のアドレスや、ブローニュの森やオペラ座の招待日も知っていた。ウジェーヌ・シユーの小説では、家具類の描写を注意して読んだし、彼女自身の渴望を空想のなかで癒すことを求めて、バルザックやジョルジュ・サンドの作品も読んだ。食卓にまで彼女は本をもちこんで、シャルルが話しかけながら食べている間も惜しく、頁を繰るのだった。

『感情教育』の物語とテーマ

- 3部構成。物語は1840年から1869年までのパリを主舞台にして展開される。軸となるのが、主人公の恋愛の情熱と1848年の2月革命にいたる歴史の流れ。主人公はFrédéric Moreau、彼のアイドルは Mme Arnoux
- 夢見る普通の人間が夢を果たせず凡庸な人生に終わったというだけの話
- <失敗の人生>を描く無数の小説の源泉に
- 2月革命(1848年)前後のパリの細緻な描写

『感情教育』の粗筋(1)

1840年、シャンパーニュ地方の小さな町ノジャン・シュール・セーヌ出身の青年フレデリック・モローは故郷の友人デロリエとともに法科の学生である。文学的、芸術的、社交的野心の漠然と混じりあう不安を抱くフレデリックは、画商で美術新聞を発行しているアルヌー氏の夫人マリのサロンの常連となり、郷里の隣人ロックの紹介で銀行家ダンブルーズ夫人の交際社会をも知る。アルヌー夫人は、少しも愛していない夫にあくまで忠実であり、彼女を恋してしまったフレデリックは動きがとれない。

『感情教育』の粗筋(2)

卒業後、傾いた家計を助けるために帰郷、数年後、伯父の相当な遺産を相続したのをきっかけに、彼を愛し、結婚の約束のある隣家のロックの娘ルイーズを残して、再び上京する。アルヌー氏は失敗して、瀬戸物商となっていた。氏の情婦で肉感的だが低俗な娼婦ロザネットを知り。再び燃え始めたアルヌー夫人への真剣な恋とのあいだにゆらぐ。ついに夫人はあいびきを約束したが、子供の急病のために行かれない。 [...]

『感情教育』の粗筋(3)

アルヌー一家は破産してパリを去って、彼は故郷に戻り、ルイーズと結婚しようとするが。ルイーズは、彼の旧友デロリエと結婚するところだった。失意の彼は旅に出る。年月は流れ、1867年、突然アルヌー夫人が来訪し、愛合っているばかりでなく激しい情欲を感じさせたが、昔の理想的愛の記憶が新しい行為をさまたげた。夫人は白くなった毛の房を切って残し、去る。フレデリックはデロリエと、学生時代をなつかしむのだった。

L'Education sentimentale : scène du départ de Paris



la Ville-de-Montereau (le navire)



278 ROUEN. — La Seine et Bateau du Havre. — LL.

I'île Saint-Louis / Notre-Dame



et bientôt, Paris disparaissant, il
poussa un grand soupir



la rivière qui coulait entre les quais grisâtres



Quai des Celestins, le Pont Marie

le quai des Ormes , sur un massif de
vieux arbres (le quai des Célestins)



La tour Saint-Jacques / l'Hôtel de Ville



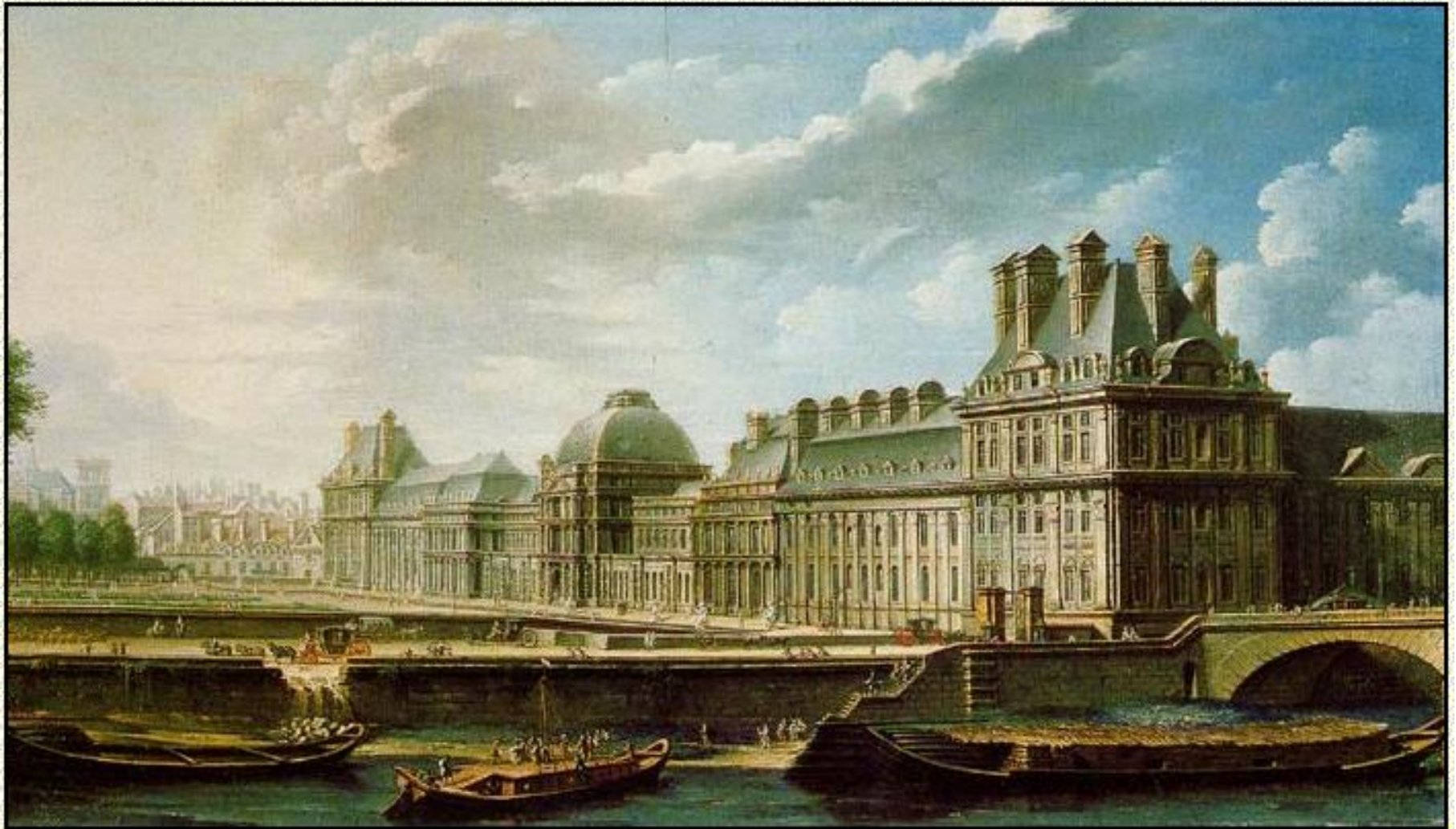
Saint-Gervais / Saint-Louis



Saint-Paul / le génie de la colonne de Juillet



le Palais des Tuileries



Il remontait, au hasard, le quartier latin

Vue d'ensemble de Paris au milieu du XIXème siècle



Gravure donnant une vue d'ensemble de Paris en 1860

Rue de la Pépinière et Rue Saint-Lazare

